

ZEN大学とZEN大学生の今を伝える

ZEN大学通信

創刊準備号

Vol. 00



topics

ネット・リアルを問わず、学生たちが精力的に取り組む 課外プログラムの活動紹介

巻頭特集

リアルでも仲間とつながる

第一期生4,236名が入学

※秋入学を含む

INTERVIEW

パートナー自治体担当者に聞く:若者と地域が共に育つ、ZEN大学との地域連携プログラム
奨学生が語る:安心して学業や夢に専念できる、「日本財団ZEN大学奨学金」

INFORMATION

企業・自治体パートナー募集のご案内

学校法人日本財団ダウンゴ学園は全国の企業や自治体と連携し、ZEN大学の学生の社会接続や社会課題の解決、研究に積極的に取り組んでいます。ZEN大学とのコラボレーションを通じ、地域や社会に新たな価値を創造しませんか。

産官学連携に関するお問い合わせ



6つの連携方法

ZEN大学ではパートナー協力いただいた企業・自治体様と以下の方法で連携をしていき、ZEN大学の目指す目的を果たしてまいります。

連携方法の詳細はこちら
<https://zen.ac.jp/collaboration>



01

キャリア・就職支援を通じた連携

インターンシップ・企業説明会・求人情報などについて、上記のお問い合わせ窓口よりお気軽にお問い合わせください。



02

国内での課外プログラムに関する連携

全国にいるZEN大学生と各地域の企業や自治体が互いに協働しあうことで、社会課題・地域課題の解決に取り組みます。



03

海外での国際交流プログラム・留学に関する連携

海外での課題解決プログラムの取り組みや海外大学への留学を通じて、国際的な活躍をみせる人材を育成します。



04

受託研究・共同研究

共同研究および受託研究先を募集しています。上記のお問い合わせ窓口よりご連絡ください。

05

寄附のご案内

ZEN大学の教育内容発展及び学生生活の拡充、研究の推進に向け、ご協力をお願い申し上げます。

06

寄附講座へのお申し込み

企業や自治体の寄附講座については、上記のお問い合わせ窓口よりご連絡ください。

研究プロジェクト

ZEN大学では、数学・AI(人工知能)・コンテンツ産業など、さまざまな領域での研究プロジェクトを立ち上げています。



ZMC(ZEN Mathematics Center;ZEN数学センター)は、数論幾何学を中心とした現代数学や、コンピューター言語を用いた現代数学の形式化(formalization)の推進と発展を目指して設立された国際研究所です。



IT・ゲーム・マンガ・アニメ・ネット文化といった、日本発のコンテンツ業界の軌跡を継承するために、業界のキーパーソン・クリエイター・技術者などへ取材をして一次資料として記録します。



HUMAIセンターは、AIを基点として人文社会を中心とした各分野の研究人材がつながり、社会の変革をリードする場を目指します。その試みとして「日本財団HUMAIプログラム」や「日本財団HUMAI研究プロジェクト」を実施しています。



ZEN大学が 開学しました！

2025年4月の開学以降、ZEN大学ではさまざまなイベントが開催され、多くの学生が参加しました。今回は、開学後初の入学式に加え、新入生懇親会や文化祭「磁石祭ZERO」の様子をご紹介します。



開学の挨拶

ZEN大学 学長
若山 正人

2025年春、本学は大学進学を願うすべての人に質の高い学びの機会を提供することにより、この情報化時代に社会で活躍する人材の育成を目指して開学されました。秋入学を含め第一期生として4,236名が在籍し、社会人学生、そして多くの高校を卒業したばかりの学生が熱心に学修に取り組んでいます。皆さまのご期待に沿えるよう努力を重ねてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



入学式 Entrance Ceremony

4月9日(水)、開学後初となる入学式を挙行し、3,380名の第一期生を迎えました。式典は麻布台ヒルズの大階段を舞台に実施され、事前抽選で選ばれた約80名の新入生が会場で参加しました。その他の新入生はオンラインで参加し、ニコニコ生放送のコメント機能を通じて式の雰囲気を感じました。当日はアカデミックガウンが披露され、デザインを手がけたコシノジュンコ氏から温かいお祝いの言葉をいただきました。さらに、作曲家・久石譲氏が手がけた校歌が、記念すべき第一回入学式を華やかに彩りました。

・新入生宣誓・

新入生宣誓では、川手知拓さん、山下瑞季さん、天野ひろ香さんの3名が新入生の代表として登壇し、それぞれ大学生活への抱負を力強く述べました。



川手 知拓さん 山下 瑞季さん 天野 ひろ香さん

入学式の様子は、こちらからも確認できます。

https://zen.ac.jp/ceremony/zen_entrance_ceremony_2025/



懇親会 Social gathering

4月9日(水)の入学式終了後は4月新入生を対象に、また9月27日(土)には10月新入生を対象に、いずれも東京・虎ノ門にある日本財団にて「新入生懇親会」を開催しました。10月の懇親会では、4月に入学した在学生もスタッフとして参加し、新入生との交流が行われました。ユニークな自己紹介などのプログラムを通じて、会場には和やかな雰囲気が広がりました。



初対面とは思えないほど、笑顔と会話が弾みました。



磁石祭ZERO jishakusai ZERO

4月26日(土)～27日(日)、幕張メッセで開催された「ニコニコ超会議2025」において、開学後初となる文化祭「磁石祭ZERO」を実施しました。学生スタッフは入学前から企画の準備を進め、イベント当日は運営にも携わりました。学生主体の活気ある文化祭となり、在学生、来場者が共に盛り上がる2日間となりました。



学生たちが主体となって企画・運営した熱気あふれる2日間でした



1 人気イラストレーターであり、pixiv提携科目のゲスト講師を務める荻pote氏による「荻pote先生直伝！イラストリアルタイム添削講座」を実施。学生から寄せられた作品をその場で解説し、多くの参加者が見入る企画となりました。
2 ZEN大学生と教職員が交流を深める場として、会場内に「ZEN lounge」を設置。ボードゲームやテーマ別議論などを行い親睦を深めました。



③インドネシア

バリ島が抱える問題と向き合う7日間

7月14日(月)～20日(日)、インドネシアでフィールドワークを実施しました。学生たちはバリ島のさまざまなエリアや活動団体を訪問しながら地球規模で起きている課題の実態を知り、活動に携わる方々と意見を交わす中で、自分はどうのように行動していくのか考えを巡らせました。

ゴミ問題を考える



サーキュラーエコノミーを考える



島内の多くのゴミが集積されるゴミ山「Suwung Community」の訪問や、ホテル周辺のゴミ拾いを通して、バリ島が直面している深刻なゴミ問題を目の当たりにしました。

貧困と産科医療を考える



無償で医療を提供するプミセハット助産院を訪問し、現地で課題解決に取り組むリーダーたちとの対話を通して、自身の価値観やウェルビーイングについて考える時間をもちました。

①東京都・大阪府+オンライン

ZEN大学すずかんゼミ

7月10日(木)、「ZEN大学すずかんゼミ」では、Googleの生成AI「Gemini」を活用した課題解決のアイデアをチームごとにまとめ、23チームが発表会に臨みました。



主な発表内容

「障害に理解のある社会へ発達障害×AI」「教えて!はたえもんー農業エージェントの誕生」「囲碁でつながる一國境を越えるコミュニケーションゲーム」「AIカウンセリ ングーメンタルヘルスに寄り添う存在」など。



Google合同会社のオフィスでアイデアを発表しました。

Enjoy the REAL!

ZEN大学の
課外プログラムが
始動

※2025年実施報告

ZEN大学は日本財団の支援のもと、社会の実情を学ぶ現場体験型の課外プログラムを豊富に用意。在学学生は世界中のフィールドで活動を展開しています。

③インドネシア

バリ島が抱える
問題と向き合う7日間

④長野県

災害に強い人材を育てる!
農業×重機の実践プログラム

⑥岐阜県

未来の暮らし、
恵那で見つけよう

⑥大阪府

「大阪・関西万博」ブース出展

②神奈川県

ZEN大学×米ミネルバ大学



①東京都・大阪府+オンライン

ZEN大学すずかんゼミ

⑤岐阜県

未来の暮らし、恵那で見つけよう

～アイデアをかたちに、恵那で理想の住まいをリノベーション～

岐阜県恵那市の空き家をゼロからリノベーション。11月から作業現場に参加し、移住を検討する人の住まいを創り、3月にお披露目を予定しています。



築40年の空き家で市内工務店のアドバイスのもと改修案を出し合いました。



移住してくる人には、どのような住まいが良いかをプレストしました。

④長野県

災害に強い人材を育てる!
農業×重機の実践プログラム

地域・企業連携プログラムの一環として、長野県・山ノ内町の「FARMERs STYLE」および同・小布施町の一般財団法人日本笑顔プロジェクトと連携し、農業と重機の実践プログラムを実施しました。有事に備え、命を守るスキルを身に付けることを目的に、農業体験、防災スキルの習得など、多角的な学びを深めました。



重機操作の資格を取得しました。 間引き作業に挑戦する学生。

②神奈川県

ZEN大学×米ミネルバ大学

海岸環境保護を体験的に学び、次世代に伝える新しい教材づくり

10月31日(金)、ZEN大学逗子キャンパスでミネルバ大学との協働プログラムを実施しました。43名の学生が英語で交流しながら、海岸環境保護をテーマに現地学習やビーチクリーン、Minecraftを活用した海洋環境教材の制作に挑戦し、創意工夫あふれる発表を行いました。



参加者全員が、逗子海岸でビーチクリーンを体験しました。



サンドボックス型ゲーム「Minecraft」で制作した教材を発表する学生たち。

⑥大阪府

「大阪・関西万博」ブース出展

8月8日(金)、大阪・関西万博のEXPOメッセ「WASSE」内の「世界遊び・学びサミット」で、「地域の『農と食と祭りの探究学習』」と題したブースを出展しました。



日本の農業の未来について考えるシンポジウムや、欧州の事例を紹介しました。



VR体験コーナーを設けて、来場者を迎える参加学生。

スペシャル座談会



「デジタル画像技法論|デジタルイラストツール基礎」のディープブリード先生とZEN大学生による座談会が開催されました。

企業連携プログラム



日本旅行と共にマスコットキャラクターを制作。「ツーリズムEXPO ジャパン2025愛知・中部北陸」で来場者に投票いただきました。

人文社会×AI



7月19日(土)に、日本財団HUMAIプログラムの最終審査会を実施し、3名が奨励金Cに採択されました。https://zen.ac.jp/humai/topics

オーラル・ヒストリー



ZEN大学のコンテンツ産業史アーカイブ研究センター(HARC)では各コンテンツ分野で活躍した人々へのインタビュー内容を一次資料として保存・公開しています。https://zen.ac.jp/harc

HOT TOPICS

Student Interviews
01暮らしを支え、心にゆとりを。
安心して学業や夢に
専念するための奨学金制度

「日本財団ZEN大学奨学金」は、経済的・地理的な理由により進学を諦めることなく、安心して学生生活を送ることができる奨学金です。

クリエイティブに

Student
01 視野を広げながら、自分らしく
自らの道を歩んでいます。

私は中高一貫の進学校からS高等学校に転入し、その後ZEN大学へ進学しました。S高での経験がとても楽しく自分に合っていたため、ZEN大学でも同じように過ごせるのではないかと期待して入学を決めました。

経済的な支えとなる奨学金はどの大学に進学しても積極的に利用したいと考えていたので、入学前に日本財団ZEN大学奨学金の存在を知ったときはとても嬉しく感じました。授業料の負担が軽減されたことにより、生活面でも変化がありました。特に車を手に入れたことは大きく、私の住む地域では車がないと生活が成り立たないため、自立への重要な一歩となりました。図書館や病院などにも自分の力で行けるようになり、心の持ちようも前向

きに変わりました。

学びの面では、興味のあるクリエイティブ系だけでなく、幅広い分野を学べることに魅力を感じています。イラスト系の授業はすべて受講する意気込みで臨み、特にPeerView提携科目の「デジタル画像技法論」や「イラストとエンタテインメント」では、実践を通して理論を理解することができる点が良かったです。

また、これまで関心のなかった数学にも興味を持つようになり、学びの幅が広がっています。ライブ授業の「人工知能活用実践」では、AIに関する最新情報や実際の活用方法に触れることで、それまで抱いていた不安やマイナスイメージが好転しました。利便性の高さを知ることでも、「使い手次第だ」と考えるようになったのです。こうした経験を通じて、物事を多角的に見る姿勢が身につく、図書館でも興味のある分野以外の本を手取るようになりました。

最近では、授業をきっかけにマンガ制作を始めました。福島県で原子力災害を学びアートを表現する地域連携プログラムにも参加予定です。将来もクリエイティブな活動を続けながら、新しい挑戦をしていきたいと考えています。具体的な職業はまだ模索中ですが、キャリア・アドバイザーとの面談を通して調べ方や考え方を学んでいます。ZEN大学での授業を通じて自己理解が深まり、好みやこだわりなど意外な自分の一面にも気づきました。しかし、多様な人が集まる環境だからこそ「こうでなければならぬ」という固定観念がなく、どんな自分でも肯定できるのがZEN大学の良さです。不安定な社会の中でも流されることなく、自分らしくとんと構えて生きていきたいと思っています。



Profile

知能情報社会学部(1年)
箕輪さん

社会人の学び直しの良いモデルに。

Student
02 実務に直結する学びは、
職場からも応援してもらえます。

現在は国立大学の職員として働きながら、ZEN大学で学んでいます。家庭の事情で以前に通っていた大学を中退した経験があり、学び直したいと考えていました。夜間大学やほかの通信制大学も検討しましたが、情報・数理系の学部が少なく決め手に欠けていました。そんな中でZEN大学のことを知り、職場の教授も信頼する著名な先生方が在籍していることから、ここで学び直すことを決意しました。

ただし、学費の問題は大きな壁でした。前の大学で受けていた奨学金の返済を続けながら学費を新たに捻出するのは難しく、奨学金がなければ入学はできないと考えていました。社会人の単身世帯ということで、比較的余裕があるように見られるのではないかと不安もあり、応募書類には自分の思いを込めて提出。決まったときは、安堵と再び学修できる喜びで胸がいっぱいでした。

ZEN大学では、数学や情報の分野を中心に学んでいます。特に「人工知能活用実践」や「情報収集と伝達技術」といった、AI関連の授業が印象的でした。めまぐるしく変化するAIの知識を先生方が工夫して教えてくださり、実践や意見交換を通じてスキルが定着していくことを実感しました。オンデマンド授業なので、理解が不十分な部分は何度も学び直せるため、数学は時間をかけて深く理解できることが大きなメリットです。情報分野についても、これまで体系的に学べなかった内容を、正しく理解できるようになりました。職場ではDX推進に携わり、講師を務めることもあるため、知識を得るだけでなく教え方も意識して学んでいます。



参加学生と談笑する和泉さん。プログラムは終始、和やかな雰囲気で行われました。

学やプログラムに飛び込んできた彼らからは、未知へ踏み出す勇気を強く感じました。

——地域連携プログラム実施を通じて感じた成果や手
応えはありますか？

和泉：「折交」というコンセプトを楽しんでくれたことが何より嬉しく、今後も会いたいと思える仲間や大人に出会えたことは、学生にとって大きな財産だと思います。リビート参加を決めた学生もいました。

小野：吉田松陰先生や明治維新発祥の地に興味を持って参加したという声が多く、秋市の認知度が想像以上に高いと分かりました。秋市のイメージと一致するプログラムを体験してもらえたことも良かったと思います。若い世代に秋市を知ってもらおうという課題に対し、ひとつの突破口になったと感じました。

——学生との関わりで心に残ったエピソードは？

小野：参加者の皆さんを市長室に招いた際、直筆のお礼の手紙を持参してくれました。「ずっとやりたかったことを秋で実現できた」と書かれており、市長とともに喜ばしく思いました。プログラムに関わった方からも「吸収力のある大学生と学び合えたことが嬉しかった」という声をいただいています。

——地域連携プログラムに興味を持たれている企業や自治体の方へ、メッセージをお願いします。

小野：秋市は高校卒業を機に転出する若者が多い地域です。地域連携プログラムは、そうした地域に必要な「若い視点」をもたらしてくれます。参加する学生は新鮮な視点で地域の魅力や課題に気づき、地域の元気づくりに貢献してくれていると思います。

和泉：学生にとって、秋市が「止まり木」のような場所として記憶に残ったはずですが、プログラムを通じて学生が戻ってくる場所となることで、継続的な関係性が生まれることに価値があると感じています。

About Our Scholarship

日本財団ZEN大学奨学金

「日本財団ZEN大学奨学金」は、経済的・地理的な理由により進学を諦めることなく、安心して学生生活を送っていただけるよう、入学前・後に応募できる奨学金です。



Profile

知能情報社会学部(1年)
清水さん

普段は、始業前や昼休み、残業のない日の終業後に学修し、ライブ授業の際は時間休を使って職場のミーティングボックスで受講しています。幅広い分野に触れられるカリキュラムのおかげで視野が広がり、特に数学の奥深さに惹かれています。天文台のボランティアスタッフとしても活動しているため、数学やその延長にある物理学を学ぶことで宇宙に関する知識を深め、来館者に還元できることがあると感じています。

文部科学省でも高等教育の在り方が見直され、リカレント教育の重要性が強調されています。私のような学び直しのリカレント人材が現場に戻り成果を上げることで、同じ境遇の人に希望を与え、一期生としてZEN大学の素晴らしさを広めていく責任も果たしたいと考えています。

Collaborator Interview
02山口県萩市で
若者と地域が共に育つ
地域連携プログラム

ZEN大学では日本財団の支援による実践型のプログラムを数多く用意。今回は萩市のプログラム担当の方にお話をうかがいました。

——ZEN大学との連携協定およびプログラムの実施の経緯を教えてください。

小野：産業戦略室では、高校生の探究活動を支援する「秋探究部」という取り組みを行っています。その立ち上げのきっかけとなった「すずかんゼミ」を主宰する鈴木寛先生から、ZEN大学の設立や地域連携プログラムについてお話をいただき、一般社団法人motibaseとともに提案の機会を得て、連携協定を結ぶこととなりました。

——今回実施したプログラムはどんな内容ですか？

和泉：吉田松陰先生の教えのひとつである「折交（※）」を重視し、人との関わりの中で自分の志や原動力を見つめることを目的としたプログラムです。萩市の大人や学生同士など多様な考えに触れ、自分の輪郭を掴めるような活動づくりを心がけました。まず自分の現在地を把握し、他者と関わる上で大切なマインドセットを整えました。その後、萩市の人々と対話を重ねて自己を見つめ、最終的にはWebマ



学生が萩市の人々との対話を重ねる中で、自分自身の志や原動力について考えを深めました。最終日には、プログラムを通じて得た「気づき」を発表しました。

Program Overview

志・原動力を磨く
令和の松下村塾プログラム

明治維新発祥の地・山口県萩市で、仲間や大人との出会いや対話を通して自分の志・原動力を見つめ、アウトプットまでを行う1か月間のプログラム。



Featured Partner

萩市総合政策部産業戦略室室長

小野 真文さん

構築および中高生の探究活動を支援する「秋探究部」などを推進している。



Featured Partner

一般社団法人motibase代表

和泉 宏さん

探究活動の伴走者として、学校・行政・企業と連携したプログラムデザインを行っている。